



### 『3年7組食物調理科』

須藤靖貴/著 講談社

高校の食物調理科、通称シヨクチョウの30人は、担任の小梅先生に厳しく指導されながら、プロを目指して、毎日調理に明け暮れています。シヨクチョウには、何事も徹底的に話し合い、1人でも反対があれば強行しないという「シヨクチョウギロン」というルールがあります。なかにはちよっぴりキケンな議論もあって、ドキドキしますよ。



### 『日本の給料&職業図鑑 業界別ビジネスマンSpecial』 給料BANK/著 宝島社

「日本の給料&職業図鑑」シリーズ4作目。働く人の約8割を占めるサラリーマンに着目し、各業界の起源や動向、業界あるある、年代別平均給料などを紹介しています。この本を将来の職業選びの参考にするのはもちろん、RPG風イラストで子どもから大人まで幅広く楽しめますよ。



### 『ど田舎生まれ、ポケモンGOをつくる』 野村達雄/著 小学館集英社プロダクション

中国の寒村で生まれ、小学生で日本に来てゲームと出会った著者。やがてコンピュータやプログラミングなど、「ゲームの裏側」へと情熱を燃やしていきます。それは何より楽しかったから！その等身大の語りには“好き”のエネルギーがつまっています。「夢中になれるものに本気で取り組むこと。それがきっと未来につながる」…著者の言葉にチャレンジする勇気をもらえる一冊です。

## 図書館おすすめブックリスト

2018年3月発行

編集・発行 砺波市立図書館



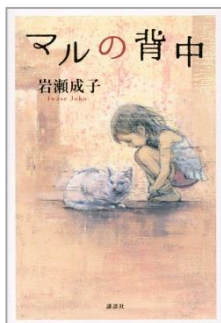
ココロふるえる本との出会いで  フル充電!!

### アオハル No.4 人生ワリエイト！青春編



### 『フクロウが来た ぽーのいる暮らし』 荻谷夏子/著 筑摩書房

「カフェ・リトルズー」で出会ったフクロウの雛“ぽー”と著者の生活を綴ったノンフィクションです。エサの冷凍ウズラの解体など、初めての世話に悪戦苦闘しながらも、喜びにあふれたフクロウとの生活がユーモラスに描かれています。リトルズーの常連客と、彼らの家の猛禽類も魅力的です。“他の命を食べて生きていく”<sup>もうきんるい</sup> ことに向き合っている姿に、胸が熱くなります。



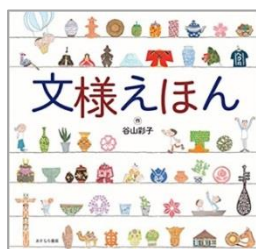
『マルの背中』  
岩瀬成子/著 講談社

小学3年生の亜澄は母と2人暮らし。ある時、近所の駄菓子屋のおじさんから「マル」という猫をしばらく預かって欲しいと頼まれます。寂しい生活の中での心躍る出来事に、亜澄は次第に素直な気持ちを取り戻していきます。猫との関わりの中で、少しずつ前向きに歩もうとする亜澄の姿に胸を打たれる物語です。



『人間はだまされる』  
フェイクニュースを見分けるには』  
三浦準司/著 理論社

この本では、共同通信社に勤める著者の幅広い知識と経験を元に、メディアが流す情報がどのように作られ、どう伝わるのかを、実際のニュースを例に出して解説しています。2016年のアメリカ大統領選のデマ情報拡散問題などを挙げ、正しい情報を共有することが、いかに大切なことなのかを指摘。迷走する時代に流されず、自分の頭で考えるための一冊です。



『文様えほん』  
谷山彩子/作 あすなる書房

文様とは、飾り付けのためにつけられた絵や形のことです。模様とは異なり、その形ならではの名前と意味があります。この本には季節ごとの文様や、外国から形を変えて伝わった文様などが、可愛らしいイラストで紹介されています。

ラーメン井やかき氷の旗にも文様は描かれています。何気なく目にしている模様も、意味のある文様なのかもしれませんね。



『100時間の夜』  
アンナ・ウォルトツ/作 野坂悦子/訳 フレーベル館

14歳のエミリアは、父のスキャンダルに耐えられず、オランダから単身、ニューヨークにやってきます。ところが、ハリケーンが上陸して大停電になり、知り合ったばかりの3人と、水道、電気、インターネットが使えない生活をすることに…。

潔癖症のエミリアがこのサバイバルをどう乗り越えるか、4人の関係の変化にも注目しながら読むと面白いです。



『セカイの空がみえるまち』  
工藤純子/著 講談社

中学2年生の藤崎空良は、自分の出自に悩むクラスメイトの高杉翔と、とある出来事をきっかけに親しくなります。翔が住むのは、外国人や世間からはみ出した人が多く集まる町・新大久保。翔の隣人ひとみさんやアパートの主キムさんなど、偏見に負けずたくましく生きる人々との出会いが、父親の失踪・学校の人間関係で曇っていた空良の日常を変えていきます。心が晴れる青春小説です。



『自閉症のうた』  
東田直樹/著 KADOKAWA

著者は重度の自閉症で、上手くコミュニケーションがとれないという障害を持っています。会話ができない困難を、文字盤やパソコンを使うなど工夫して、著者は自分の思いを対話や短編小説で表現しています。

素直で爽やかな著者の言葉が、心に響く一冊です。